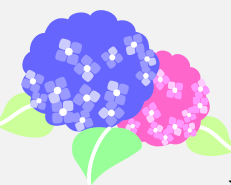




## 這(は)えば立て 立てば歩めの親心

親は生まれた子がはうようになれば、つかまり立ちができるようにならないかなと思ひ、立てば早く歩くようにならないかなと思うものという、子どもの健やかな成長を願う親の気持ちを表したことわざ。

高鍋東中生は、日々一筋に成長しています。



## 絵画の寄贈していただきました

本県を代表する画伯であり、本町出身で活躍されている石井秀隣先生から、絵画1点「作品名:[活](いのち)」を本校に寄贈していただきました。画業70年の集大成の一つとしての貴重な作品を寄贈していただいたことに感謝の意をお伝えするために「絵画寄贈に係る感謝の会」を5月20日(金)に開催しました。

石井先生からは、絵への思いについて次のように語っていただきました。

絵を描き始めてから70年。今まで、一貫して私の絵を支えているのは「命の大切さ」です。小学生の頃に戦争体験があります。当時、蚊口地区は爆撃で大変な被害を受けました。その時、残念ながら同級生が亡くなりました。そのような経験があつて、いかに命が大切かをこれまで絵で表現し続けてきました。また、50年程前の作品は魚や鳥といったものを生命の象徴として描いていました。そして、10年程前から真っ赤な絵を描くようになりました。私は今、88歳ですが、たぎるような赤、情熱的なものにあこがれるようになったのかもしれません。

現在、創作をするということで毎日が楽しく充実しています。中学生の皆さんもそれぞれに合った思いや生き方があるので、しっかりその生き方を全うしてください。

今回は、そのような皆さんの応援の一つとして、学校に寄贈した絵が役立っていたいただければ大変嬉しいです。

感謝の言葉を生徒会長が述べました。

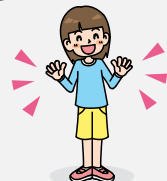
とても素晴らしい「活」(いのち)の作品を本校にいただき大変有り難うございました。最初に見たときに、とても迫力があつて見とれてしまいました。先生から絵のお話を伺うことで、とても絵のとりこになりました。私たちは、絵のような活気盛んなたくましい東中生になろうと思います。本当にありがとうございました。



## 楽しい人 文献から

一緒にいると楽しい人がいます。あなたの周りにもそういう人がいるのではないのでしょうか。楽しい人には共通する3つのポイントがあります。

- 1 悪口や愚痴を言わない
- 2 明るい未来を語る
- 3 笑顔でいる。

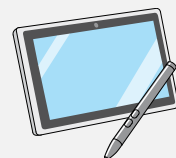


誰かの悪口や仕事の愚痴を話しては、周りの人だけでなく、自分も暗くなるだけで、少しも楽しくありません。

明るい未来を話題にすれば、希望のある言葉が交わされ、自分だけでなく、周りの人もだんだんと楽しくなっていきます。また前向きな話をしていると、人は自然に笑顔になります。その笑顔が、会話をさらに楽しい方向へ盛り上げてくれます。もしかしたら、笑顔でいることで、自然と前向きな話題が出るようになるのかもしれない。

あなたは、一緒にいて楽しい人ですか。愚痴をなくし、明るい未来を語り、笑顔を増やしましょう。そうすれば、きっと周りの人が自然とあなたのもとに集まってくるはずですよ。

自分自身を振り返り、考えさせられる記事です。いつも笑顔とはいかないですが、まず自分から心にとめて実践していくことが大切ですね。



## タブレット端末、オンライン・・・

昨年度から一人1台のタブレットが配布され、日々校内では活用されています。本校では、登校してから下校するまで、なるべく活用できるように日常化を目指しています。もちろんそのようにすれば、様々なトラブルも発生しますが、そのようなことを一つ一つ解決し、鉛筆や定規といった文房具と同様に日常化できるようにしていきたいと考えています。それには一番大切なのは、ルール以前にやはり信頼関係だと思っています。まず何をしたらダメだといったことではなく、自覚した行動の中で大いに活用してほしいと思っています。

また、始業式、生徒総会、生徒集会とオンラインで行われるようになってきました。生徒たちもずいぶん慣れてきたようです。すでにどの授業でもタブレットは活用されていますが、使い道としてはまだまだこれから新たな活用が試されていくと思います。より効果的な取組を模索し、これからの時代にあった教育に取り組んでいきたいと思っています。



【後記】初夏の候の6月となりました。校内では様々な場面で活気が出ています。放課後には、部活動生の掛け声や吹奏楽の音色が心地よく聞こえます！（校長）